

みなと元町 TOWN NEWS



No. 300

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

アーケードの上に登ると、そこは私の知らない元町があった

まちづくりコンサルタント・合資会社ゼンクリエイト 根津昌彦

6月9日(金)午後4時30分、元町老番街商店街の東端に、いつもと違う場所を屋外に移して神戸元町商店街まちなみ委員会の関係者が集合しました。目的は、アーケードの上に登って建物の老朽化の状況を知ることでした。日頃、見慣れた元町は、アーケード下のビル低層部の店舗の連なりであり、アーケードの上の街並みがどうなっているかなど、ビルオーナーや上層階のテナントでもなければ知るすべもありません。

昨年夏に一度協和会館(元町通3丁目)から元町北通を東に歩いて、沿道の街並みや狭い敷地の利用状況、駐車場利用にとどまっている土地の様子などを確認し、街並み誘導型地区計画の有効性についても議論を行いました。今回は、「元町」を知るための“まち歩き”の第2弾”との位置づけで、初めて登るところに思いを馳せ、一体どんな風景が見られるのだろうかかと心躍らせて参加しました。

アーケードの上に上がるというのも、実は一苦勞。本来は、支柱に取り付けられたハシゴを使って登るのが正しい登り方らしいのだが、国際楽器さんのビルの3階の窓からアーケードに移り渡るとい曲芸を参加者に強いて、全員無事にアーケードに登ることができた。

上へ上がってみると……、へーっと思う風景が広がりました。アーケードの上は、両側に幅50cm程の網目状の歩行者通路があり、約20mピッチで両側通路をつなぐブリッジが渡っていました。アーケード本体は半円柱上で西に長く伸びており、さながら巨大水道管の上にいるようでした。アーケードの両側には建物が近接しており、なるほど道路境界ギリギリに建物が建っていることがよくわかりました。ところどころで緊急時に建物から簡易ハシゴで歩行者通路に渡れる場所があったり、消防設備も一定間隔ごとに設置されていました。

アーケードを西へ歩いていくと、新しい発見が次々と。普段商店街を歩いている時には、各ビルの上に人が住んでいるなんてことはあまり意識していなかったのですが、上に上がると、あのビルにもこのビルにも住居があるということがわかりました。特に、南京町側で多く住居が確認できました。また、アーケード上から屋上を見ることが出来るビルが思いのほかあって、その多くが人目に触れる意識のない無造作な状態でした。連続した建物で階高も階数もバラバラで、アーケードを撤去するなんてことを決めようものなら(註:そんな議論がされているわけではありません。)、3階以上の部分を今のままほおっておく訳にはいかならうなあと強く感じましたし、商店街の在り方、まちづくりの方向は、アーケードの有無によって180度考え方が変わるだろうと。

さらには、道路斜線制限の影響により上階部が斜めに切られた形のビルの多さもあらためて確認できました。元町商店街のビルがすべて建て替わることなど、何十年も先のことだろうとは思いますが、見られることの意識のない部分への配慮やお金のかけ方が、あまりにも少ないように感じられました。老朽化したビルの建替えを意識して地区計画を考えていけば、斜線制限や容積率制限の緩和の話と共に、「建築物等の形態又は色彩その他の意匠の制限」に関して、最低限度守ってほしいことと推奨したいデザインの方向をしっかりと示していかねばと、思いを新たにしました。すべての建物オーナーに「街並みをつくる責任」を意識していただきたいと願っています。



元町で産声をあげた本屋は、鳩居堂である。広辞苑に、「江戸時代創業の京都の筆墨の老舗。熊谷次郎直実の子孫という」、とも添えている。

岩田照彦

「元町・夢街道」

書店の話(2) 鳩居堂(1)

熊谷次郎直実は、平安から鎌倉時代のはじめ、佐竹氏討伐の労として武蔵野国熊谷郷の地頭職になる。源義仲や平家との戦いでも先陣にたつ勇猛な武将として名をあげ、鎌倉幕府の成立に貢献した。元暦元(一一八四)年、一の谷の戦いで、平家の平敦盛を追いつめる。が息子と同世代の若者となり、一度は逃がそうとするが、追ってきた味方の目に動きがとれず、首をうちとつてしまう。それが心の深い傷となり、頼朝の前で、養父との所領争いの結論を待つことなく、直実は髪を切り落とし、出家する。

建久四(一一九三)年、直実は京都に赴き、法然上人に弟子入り、蓮生と名乗った。その後、法然の生誕地の後、熊谷にもどり、熊谷寺で念佛三昧の生活で生涯を終える。

熊谷家にとつて、直実の父・直貞の旧地があった、というにすぎない。家督を継いだ直家から数えて二十代目にあたる熊谷直心が、二十五歳で京都へでてきたことには、京都で医学や薬学を学び、寛文三(一六六三)年、現在地の中京区寺町姉小路角で、薬種商「鳩居堂」を開業する。

薬種の原料は「香」と共通するところから、元禄十三(一七〇〇)年になると薫香線香の製造をはじめ、薬種原料の輸入先である中国から、書画用文具も輸入、とりあつかいの品数をひろげてゆく。その後も鳩居堂には、種痘所を設ける店主、教育塾を開いた店主など、社会とのつながりを大切にした活動を伝えているが、八代目の当主熊谷直行は、太政大臣・三条実美から「宮中御用の合せ香」の秘法を伝授されている。

直行の弟に、幸介がいた。兵庫県書籍組合三十年史に、その幸介が壮年のころ「神戸市相生町鳩居堂支店に來り勤め」と、書いてい

神戸鳩居堂の幕あけである。

神戸元町商店街 楽市楽座 8月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL.331-7850
水曜日 8月16日(水) 10時～19時

◇元町三丁目商店街振興組合 TEL.322-2797
船長さん記念撮影会 8月26日(土)・27日(日)

◇神戸元町商店街 TEL.391-0831 1番街～6丁目にて
みなと元町現代写真展
8月26日(土)～9月3日(日)

◇風月堂ホール(有料) TEL.321-5555

もとまち密蔵「感雑亭」
8月10日(木)
桂 鯛蔵 桂 杏之輔 笑福亭 生喬
桂米團治 中入 林家 小染
笑福亭 仁智
前売券:7月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523
8月3日(木)～8月8日(火) こころのアート展
8月10日(木)～8月15日(火)
1945年の神戸・空から見た市街地 写真展
8月17日(木)～8月22日(火)
劉素真と神戸墨酔会 水墨画展(水墨画)

8月24日(木)～8月29日(火) 第18回 麓和会展(油彩)

8月31日(木)～9月5日(火) 産業遺産写真展
◇元町映画館(有料) TEL.366-2636

8月5日(土)～8月11日(金)
ルキーノ・ヴィスコンティ監督特集「若者のすべて」

8月5日(土)～8月18日(金)「人類遺産」
8月12日(土)～8月18日(金)

「人間爆弾「桜花」一特攻を命じた兵士の遺言」
「オーナーの謎のリスト」

8月12日(土)～8月25日(金)
「ろくでなし」・「家族の肖像」

8月19日(土)～8月25日(金)
元町映画館7周年記念企画「恋愛映画集」

「まんが島」
8月19日(土)～9月1日(金)「残されし大地」

8月26日(土)～9月1日(金)
「「知事抹殺」の真実」

「コンピニ・ウォーズ バイトJK vs ミニナチ軍団」
8月26日(土)～9月8日(金)

「ブレンダンとケルズの秘密」
「真白の恋」・「ウィッチ」

編集後記

平成三年三月創刊の本紙は、三百号をむかえた。初代編集長は元町四丁目商店街振興組合理事長の坂田道治氏。同氏は平成五年十一月の三十号までつとめ、その後、現編集部が引き継いだ。平成六年一月に発行された三十二号は、二面に笹山幸俊神戸市長の年頭あいさつ、二・三面に神戸市都市計画局と共同開催のまちづくり円卓会議、三面には商店街の立場からまちづくりを語る島田誠氏のメッセージ、四面にはまちづくり会館開場式典の記事と、まちづくりが新しいステーションに入ったニュース群が紙面をかざる。刷り上がったばかりのニュースをかえて駆け込んだきた坂田事務局長の「元氣」をこれらの紙面に、と願う。



栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は7月14日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(神戸市住宅都市局)坂田竜一・田中淳也・川口雄也、(広島銀行)佐藤直也、(㈱トマト銀行)杉本沙織、(兵庫県信用組合)村上彰啓・常深雅子、(銀泉興産)福田時雄、(三鈴マシナリー)野田常美、(神明倉庫)藤尾憲弘・十時実希、(神明アグリ)山本弘文、(㈱イーエスプランニング)藤岡美玲、(新光明飾)中川俊・藤田直之・西村友博・篠原博明・大森喜美子、(佐田野不動産)佐田野宏之、以上19名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



海という名の本屋が消えた (45)

平野義昌

淀川長治その3

淀川長治は自伝で映画界復帰を昭和7年か8年か不明と書いている。自宅の隣人が映画会社支配人で、別の会社の宣伝部員募集を教えた。しかし、採用試験を受けなければならず長治のプライドは傷つく。二次試験まであった。長治は「映画についてはプロ」という自信を持っていた。ひとりよがりと言えはそれまでである。知人のユナイト大阪支社宣伝部長に鬱憤をぶちまけた。すると、「ユナイトにはいいいな」と言われ、即決する。ユナイトはチャーリー・チャップリンの『街の灯』公開が決まり、大宣伝の用意で増員が必要だった。長治は家族の猛反対を押し切り、姉の店を辞め就職した。『街の灯』封切りは1934(昭和9)年1月、よってユナイト入社はその前年(昭和8)と思われる。

長治はチャップリンのおかげでユナイト入社＝映画界に復帰できたということになる。そのチャップリンと直接会う機会が訪れたのは36(昭和11)年3月、長治にとって「生涯忘れえぬ月」だ。チャップリンは『モダン・タイムス』撮影を終え、共演女優ポーレット・ゴダードと結婚するため世界旅行に出ている。朝刊の小さな記事(それも一紙のみ)にチャップリンが神戸港に立ち寄り、世界的映画俳優の来日ニュースにもかかわらず、マスコミは騒がない。ユナイト社内では支配人も社員も普段通り働いているし、アメリカ本社から何の命令もない様子だ。報道管制が敷かれたのだろう。

《しかし私は、「チャップリンが今日神戸に来る」というその事実が嘘みたい夢みたいに思え、それがほんとうなら、ここにこうしておられるものかと、ついに一人で神戸行きを外人支配人に申し出たところ、かんたんにOKと苦笑して許してくれたのだった。私には止めても行くにちがいないと見てとったのであろう。》^{註1}

長治は神戸メリケン波止場停泊中のクルージング号に乗り込んだ。記者もカメラマンも来ていない。船長は長治がユナイト社員とわかると丁寧に対応してくれた。チャップリン夫妻は市街に食事に出ている。船長は親切に船内を案内してくれるが、長治の頭はチャップリンのことでいっぱい。デッキに戻り、その人を待った。初期の短篇ドタバタ喜劇から見た大スターにもうすぐ会えるのだ。《そのチャップリンが昭和七年(一九三二)に来日したときには二百名からの警官がチャップリン歓迎の日本の大群衆を整理警戒していたことも知っているのだから「今」ここで「私ひとり」がチャップリンに逢えるということは奇蹟がやってきたというふうだったのである。》^{註1}

32年チャップリン初来日時、〈五・一五事件〉が勃発。海軍将校らが犬養毅首相を官邸で殺害した。当日、犬養毅は晩餐会にチャップリンを招待しており、将校らはそこを狙う計画だった。チャップリンは大スターの気まぐれで晩餐会をキャンセルし、大相撲観戦をして助かった。研究者が事件関係者たちの動きを「サスペンス映画を地で行く展開」

と書くほど緊迫したものだった。^{註2}

話をメリケン波止場に戻す。チャップリン夫妻が船に帰ってきた。船長が話してくれ、5分だけ会えることになった。《私はチャップリンのそばにとんで行った。目と目が向いてあった。背の大きさは私とほとんど同じであった。目のまへのこのフィルムでないなまのチャップリンに私はこの人がイギリス人であることも感じなく、外国人と日本人のちがいがいもけしとんで「人間」をいまこの目で見ているという感情がこみあげた。》^{註1}

長治は会見できた感激を話し、記憶している映画の場面を演じて見せた。チャップリンは微笑みながら長治を部屋に招いた。この年の2月、『モダン・タイムス』はアメリカで公開されていた。日本では試写もまだだったが、長治はアメリカの雑誌で情報を得ていた。5分の約束が30分を超えた。夫人が波止場の屋上で売っている真珠を買いたいと言う。長治が付き添った。客の目の前で貝を割って真珠を取り出す販売方法で、彼女は面白がり20個以上買った。安い真珠なのだが、良い真珠はなめると非常に冷たいと教えた。彼女は「冷たい」「ラッキー」と満足した。チャップリンは長治の心遣いに礼を言った。長治にとって、短いながら濃密な時間だっただろう。この時のエピソードまだある。

長治がクルージング号を降りると、波止場で50歳くらいの日本人女性がその船に向かって手を合わせていた。《私は思わずその女の人にわけを聞いてみた。すると、「私は山口県の者ですが、アメリカに子供を置いてかえりましてから、もう十年くらい子供と逢っておらんのですが、その子が、実はチャップリンさんのご旅行に、用事もないのに、あの子に逢わせてやろうと、はい、わざわざ神戸まで、あの子を連れてきてくださったのです。ありがたいことで。》^{註1}

チャップリンはフランク・ヨネモリという日本人のボーイを同行し、神戸で母と会えるよう手配していた。この時、長治はヨネモリ少年に会っていない。51(昭和26)年、ハリウッドでチャップリンに面会した時、このヨネモリが世話をしてくれた。

余談、チャップリンのもとには14(大正3)年から高野虎市(こうのとらいち、広島出身、1889～1971)という日本人秘書がいた。チャップリンは全幅の信頼を置いた。チャップリンの日本文化好きは彼の影響と言われている。この旅行には同行していない。後に高野はゴダード夫人と衝突して、チャップリンのもとを去ってしまう。

38(昭和13)年、長治はチャップリンの『モダン・タイムス』封切りに伴い東京支社に異動する。両親を神戸に残し、とりあえず長治ひとり赴任する。「いよいよ東京」という思いがあるが、喜んではいない。《……私は東京という田舎へ何ゆえに行かぬばならぬのかとムカムカしていたのであった。それも一週間くらいならとにかく半永久的に東京の人間になるということが嘘のように思えたので

あった。それほど私は神戸を愛し、神戸が日本最高のほんものの文化都市と信じていたからだった。けれどもすくなくとも映画の仕事をするうえからは、どうであろうとも東京が本舞台のことは百も承知ゆえ、東京に移るといことは私の運命とあきらめてはいたのであるが。》^{註1}

長治は大阪支社公認で興行会社・松竹の雑誌編集をして報酬を得ていた。松竹系列の試写も見てまわられた。恩師とも言える映画評論家・野口久光、双葉十三郎、清水光と深く交際した。他の会社の重役が監督や俳優に会わせてくれた。すべて長治の仕事と人柄が「信用」されたからだ。厚遇を享受していた。

ところが、姉の店が経営悪化した。父との共同出資だったが、父の金が底をついていた。姉は仕入れと私生活に浪費し、「ぜいたくは敵」のご時世で高級品は売れない。姉から父への生活費支給がなくなる。姉の言い分は、長治が勝手に店を辞めたのだから彼が親を養えばよい、というもの。長治は昇給することもあり転勤を受け入れたのだった。

長治は宣伝部長を命じられ、旧知の『映画之友』社長の世話で横浜に住まいを定め、神戸の両親を迎えに帰る。裕福だった親子3人がわずかな荷物で三等寝台に乗った。姉の見送りはなく、餞別もなかった。しかし、3日後、姉から机と鏡台が届いた。

41(昭和16)年12月8日、日米開戦。ユナイト東京支社は閉鎖された。翌年春、長治は東宝宣伝部入社。戦争は激化し、本土空襲。洋画は独・伊映画が数本封切られただけ。それでも邦画は黒澤明、溝口健二らが敗戦ギリギリまで製作していた。

長治は46(昭和21)年春から『映画之友』に原稿を書き、やがて同編集部に入る。テレビに登場するのは60(昭和35)年「ララミー牧場」(NET、現テレビ朝日)解説。そして、66(昭和41)年「日曜洋画劇場」(同)解説で一躍有名になる。

98(平成10)年11月11日逝去。前日までテレビ収録、当日新聞取材、さらに翌日も対談の予定があった。映画を愛し、映画と共に生きた人だった。抜群の記憶力で、映画・芸能だけではなく神戸についても多くの文章を残してくれている。

^{註1}『淀川長治自伝 上・下』中公文庫 1988年
^{註2} 大野裕之『チャップリン 作品とその生涯』中公文庫 2017年
参考文献『広告批評別冊 淀川長治の遺言』マドラ出版、1998年



「メリケンシアターの碑」メリケンパーク

出来事ファイル (No.17-8)



福本ヨネ (徳山安児)
モラエス (徳山隆秀)



川崎正蔵 (福井康寛)
EHハンター (蓮池國男)
平野愛子 (福井奈美)

一番街から蓮池國男(国際楽団)が居留地に商社を開いたほか大阪に後の日立造船となる鉄工所を開いたEHハンター役を。徳山隆秀(トウインクル)は神戸でポルトガル領事を務め、広く日本を世界に紹介したモラエスに。徳山安児(トウインクル)は、モラエスの妻になった福本ヨネ役を。福井康寛(タベルナ・カルボ)は、川崎造船所開設や神戸新聞を創刊した川崎正蔵役。福井奈美(タベルナ・カルボ)は、EHハンターの妻になった平野愛子に愛身した。

「神戸みなとの祭」で昭和四十四年まで行われてきた懐古行列が、神戸まつり前日の五月十九日(金)神戸市民祭協会の主催で復活。元町商店街から十五名が参加した。行列は十六時、元町商店街六丁目目をスタート、三宮センター街東口まで行進、お目あての登場人物を探す人たちなどにぎわった。



孫文 (田淵秀樹)
呉錦堂 (川見栄一)

四丁目は田淵秀樹(メゾンド・マルシェ)が、日本に亡命、中華民国建設に尽くした孫文に。川見栄一(竹内商店)は、来神した孫文の思想に共鳴、舞子浜に建てた自分の別邸移情習でもてなした呉錦堂役を演じている。



水島鏡也 (山本佳代)
ランバス (橋本友宏)
間人たね (木谷めぐみ)

三丁目から橋本友宏(メンズアパレルアダム)が神戸でメソジスト教会の伝道に努め関西学院を設立したWRランバス役に。山本佳代(アルムワール)は、現神戸大学の一部になっている神戸高等商業学校創立者の水島鏡也役。木谷めぐみ(アルムワール)は、父の経営する寺子屋を開放、幼児教育の発展に尽くした元町出身の教育者 間人たね役で出場した。



楠木正成 (松井隆昌)
後醍醐天皇 (片山喜市郎)

六丁目は片山喜一郎(スタジオオキイチ)が、後醍醐天皇役に。松井隆昌(亀井堂総本店)が、楠木正成役に扮して人目をひいた。(文中敬称略)

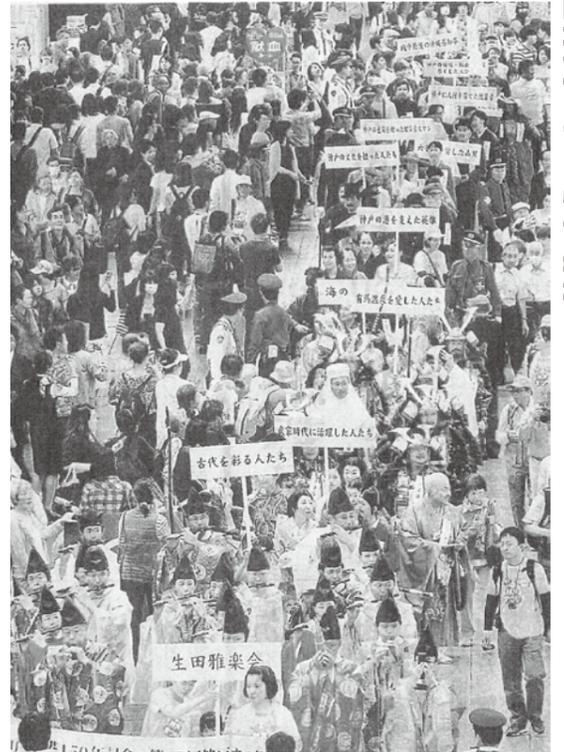


マーシャル (成井将悟)



加納宗七 (片山みほ子)
生嶋四郎大夫 (片山ひろ子)

五丁目の片山ひろ子(WINDWARD)は、勝海舟に平野別郎を提供した神戸村庄屋生島四郎大夫役を。片山みほ子(WINDWARD)は、生田川の付け替えに貢献した加納宗七役。成井将悟(八百屋番長)は、初代神戸港長に就任、神戸港発展に寄与したJ・マーシャル役を演じている。



神戸新聞より

神戸まつり懐古行列